

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	医療法人静風会		
事業所名	グループホームHIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1-178		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町村受理日	令和4年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療との連携強く、今、特にコロナ禍の中大切である。入居者様を守る為情報収集、指導、実践等においても心強く入居者様、ご家族、職員一同安心してグループホームの良さを活かして、共同生活が送れている。地域との連携も強く非常時等心強い存在である。又、入居者様も心身にわずかでも異変が見られたら医療法人(内科、精神科等)が母体なので即相談、適切な医療を受けられる為、再び当施設に戻られる方もいらっしゃる。家庭的雰囲気、和やかな施設である

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2172100881-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年7月16日		

職員は、利用者一人ひとりのペースや思いを大切に家庭的な馴染みのある生活を送れるように取り組み、職員都合でバタバタしないように気を付けている。コロナ禍ではあるが、感染予防対策と体調管理をして短時間の面会を継続して家族との関係が途切れないよう支援している。生活スペースが2階にあり、災害時は階段を使つての避難となることから日課の散歩やラジオ体操、体を使うゲームをレクリエーションに多く取り入れて、体力が落ちないようになっている。食事の準備や片付け、居間や居室の換気や掃除など利用者の活躍する場面があり、張り合いや楽しみのある生活にしている。職員は些細なことでも管理者に相談しやすく、職員同士も協力し合う関係があり、学校に通いながら勤務が継続できるなど働きやすい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、共有し実践している	理念である「馴染みの人間関係の中でゆったり安心して暮らす」ことができるよう、管理者は職員に話をしている。利用者のペースに合わせて、のんびりとゆったりした生活を送れるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域との連携あり、非常時の連携等強い	散歩に出かけた際、近所の人と挨拶を交わし顔馴染みになっている。自治会長から「入居者全員の顔を覚えている」との言葉ももらっている。管理者は、自治会の会合に参加して高齢者の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がこの地域の役員にもなっており、日常的に関わり活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者全員運営推進会議に参加、意見を頂きサービスに活かしている	会議には利用者全員が参加し、生活の様子や希望を話している。職員が代弁することもある。行政から感染予防の話をしてもらい、利用者の手洗いが正しく出来るようになった。議事録を家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と日頃から連携、協力関係ができています	書類の書き方などわからないことがあると相談している。市より個人情報の管理について助言があり、法人に相談して改善することが出来た。担当者とは話しやすい関係を作り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2F出入口は事故防止上、施錠しているが、拘束しないケアに取り組んでいる	法人からの資料を使い、事例検討会や研修をしている。2階出入口は施錠しているが、外に出たい様子の利用者には、散歩に出かけて対応している。運営推進会議の時に、現状を見てもらい理解を得ている。適切でない言葉や対応があれば職員同士注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会などで学び注意、防止に努めている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている利用者様もおられ、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の元お互い納得を図り、トラブルなし		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時ご意見を伺い反映させている	面会や請求書郵送時、電話などで近況を報告して家族の要望を聞いている。本人からは、運営推進会議で発言してもらったり、七夕の短冊に願い事を書いてもらったりして、一人ひとりの願いを順番に叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、昼の休憩時など意見を聞き反映させている	管理者は、日頃から職員の提案などを聞くようにしている。トロミや切り方など食事に関すること、着替えやオムツなどの負担軽減についてなどの提案を取り入れている。急な休みにも対応できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人といつでも相談できる体制があり努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修ないが法人内研修や管理者が参加した研修を全職員に内容を伝え向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、できないが今後進めていく		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っている事等、言えない方にはご家族より情報を頂き安心、安楽な生活が送れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと取り要望等を伺い、安心して頂ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神デイケアーを利用されたりの入居者様もいっしょに柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特徴であり、できている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でも家族の絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、最大限の面会をして(時間短縮)支援している	リビングの電話を使い、家族と連絡をとっている。法人の医師に許可をもらい、短時間の面会を継続している。毎月郵送する便りに個々の様子を書き添えたり、書ける利用者には一言書いてもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	密接になりやすく、小さなトラブル有るも支え合えるような支援に努めている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	HIPPO退所後も、ご家族等からの相談あり、支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人、ご家族に希望、意向をお聞きし、把握に努めている。困難な場合はご様子を見て本人本意検討している	レクリエーションやおやつの時間など、日頃から話を聞いている。困難な場合は、様子などから思いを把握するようにしている。寝る前のホッとした時間に思いを言われることもあり、翌日の申し送りで伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、馴染みを大切にしたプランを作成。経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人ずつ、ケアプランに添ってできている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを大切にして作成できている	面会時や電話で家族に要望を聞き、担当職員が行うモニタリングを基に現場の意見を聞いて、6ヶ月ごとに介護計画を見直している。医師の意見を取り入れることもある。状態に変化があれば必要に応じて見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプランであり、情報共有し実践や計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じニーズに対応柔軟なサービスに取り組んでいる		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の力、身内の方々の力を借り支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為に連携している	全員が法人の病院を職員の付き添いで受診し、家族に結果報告をしている。眼科などの専門医は家族が付き添い、利用者の様子を伝えている。夜間の急変時は、家族の希望を聞き対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/Wの訪問、連携し適切な受診が受けられるよう支援出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が大垣病院で、連携が出来ている、又訪問看護も母体から派遣、関係が強い		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていないが早くに、医療と連携の元支援している	入居時に看取りを行わない事業所の方針の説明と重度化した場合は、母体の病院や介護施設などへの転所を含め情報提供をしている。状態の変化に応じて主治医・管理者から家族に説明し、家族の希望を聞きながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最近熱中症の訓練をしました。全職員実践力を付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の防災隊にも入っており、協力体制ができています	災害時2階から1階まで職員が誘導し、外に出たら地域の方に助けてもらう協力体制があり、自治会の防災隊の役割を担い協力関係作りに努めている。市の助言で水害時の訓練も行っているが、夜間想定訓練を実施していない。	夜間、職員が一人で利用者を階段を使って、避難誘導することになる。いざという時、慌てないために、夜間想定訓練を繰り返し行うことを期待したい。

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、応接など職員同士、注意を払って対応している	言葉づかいや対応で気になることがあると、その場で指導している。職員同士でお互いに注意ができるように話をしている。居室でポータブルトイレを使用する際は、タオルをかけるなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩、レク時等活用、思いを伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの良い点を活かし、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様は皆さま、おしゃれで、支援させて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は黙食であるが、守れない方もいらっしゃる。優しく対応。楽しい食事を心がけている	法人より食材が届き、利用者の希望を聞いて調理している。下ごしらえ・調理・片付けなど利用者に役割があり、一緒に行っている。出前をとったり、誕生日に希望のメニューにしたりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の法人栄養課より献立が届き、十分な栄養管理ができています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人違うが個々に応じた支援ができています	トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。立位困難な人に日中は、2人介助でポータブルトイレでの排泄を支援している。紙パンツから布パンツとパットになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを個人で取ったり、献立に焼き芋等を取り入れ支援		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となったが楽しく入浴できる様支援している	入浴のない日は毎日、清拭をしている。午前中の中入浴を基本としているが、嫌がる利用者には時間を変えて対応している。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯などの入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房は各々各自違う、良眠できる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。症状変化時は主治医へ報告、体制が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々、利用者様には役割があり生きがいとなり遂行されている又おやつは職員が好みを伺い用意している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日のように行く(コロナ禍の為、外食、外出は無理だが)	毎日の散歩を日課とし、天候に応じて出かけている。外出ができないため、脳トレゲームや1日3回のラジオ体操、風船バレー、輪投げなど体を使うレクリエーションを工夫して筋力低下防止や気分転換に努めている。	

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の中遠方の方からの電話、便りなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では三食共手作り、良い香りで早々に食堂にみえる方多い。全室窓開放して換気にも努めており不快な臭い無いよう支援	食堂・廊下には、季節の花や手作り作品、行事の写真を飾っている。定期的に換気を行い、毎日決まった時間に利用者と職員でテーブルや手すり、床などの消毒を行っている。感染予防をしながら快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファが置いて有り、一人で音楽を聴かれる方や おしゃべりを楽しまれる方もいらっしゃる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	飼い犬の写真を飾られたり、好みのものを置かれたりしている	感染予防対策の為、風の通りがよくなるよう、家具の配置を考え、定期的に換気や清掃をしている。テレビ、鏡台など使い慣れた物を持ち込み、家族写真・色紙・作品などを飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの文字を大きくしたり、鈴で開け閉めを確認、職員がすぐ駆けつける事が出来る様工夫		